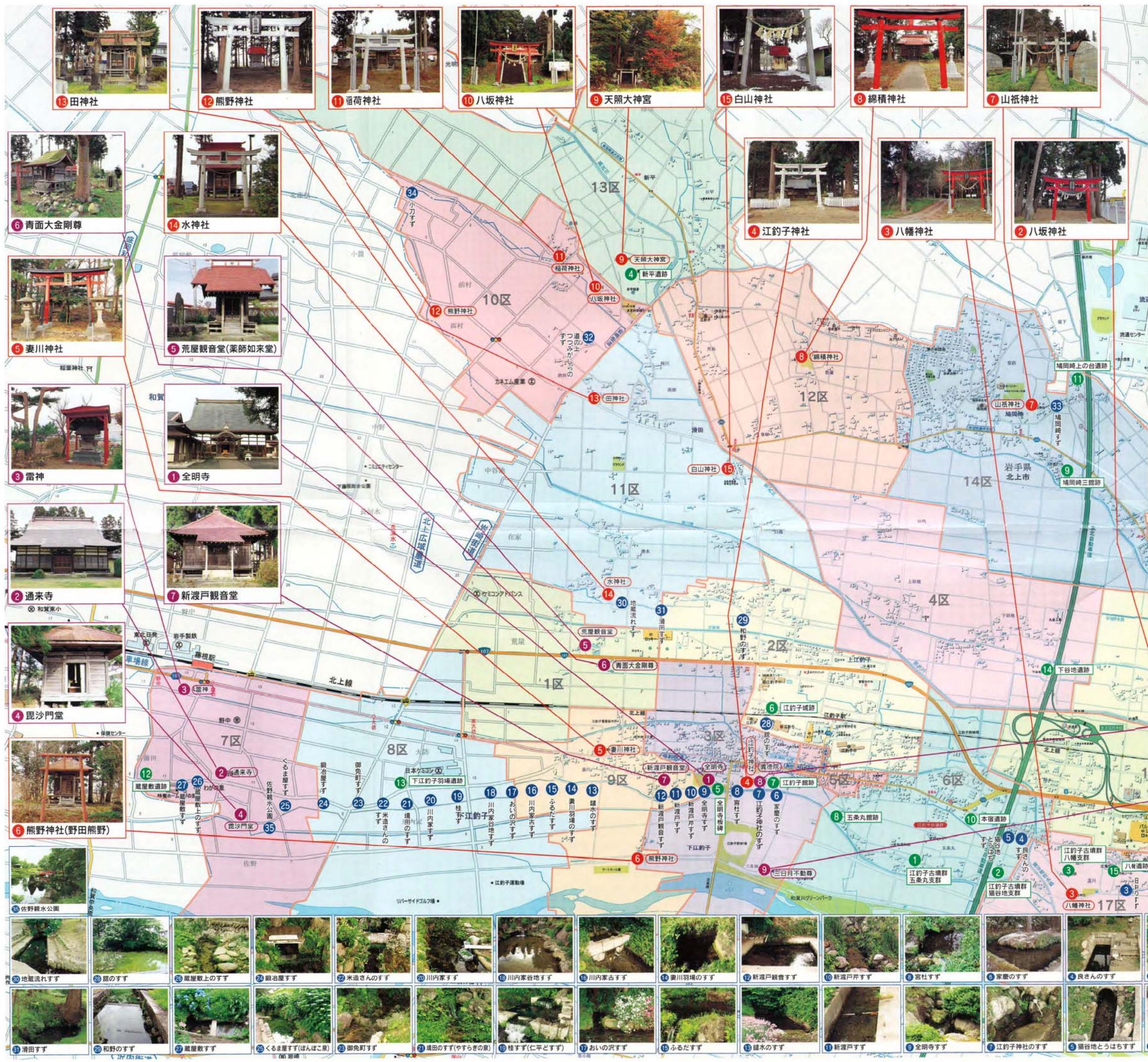


えづりこ散策マップ

すず・社寺・史跡編



すず

| | | |
|----|--|---|
| 1 | | 三助すず 鳥海櫻 江釣子地区の東端、豊富な水が湧き出ており、洒落た形をした「かど」に地域の人達の洗い場として今なお利用されております。「三助」は、このすずを拓いた人の名に由来します。近辺は商業 地域、住宅密集地として変化した地区であるが以前と変わらぬ清水が湧き出ています。 |
| 2 | | 畠中すず 鳥海櫻 鳥海桜佐藤家の南側、三助清水の西側の位置に湧き出でおり、まったく自然のままの形で管理されているように見られます。近年まで小魚とりで子供たちが遊んでいた微笑ましい光景が浮かぶところです。 |
| 3 | | 田中のすず (睡蓮すず) 田中 すずの名は地区名よりとっています、かつては豊富に湧き出る水を利用して睡蓮の苗を育てて販売していました。その睡蓮畑も今は「釣り堀センター」に生まれ変わり、市民の憩いの場となっています。 |
| 4 | | 良さんのすず (猫谷地東すず) 道川 すずの名は清水の所有者である高橋良さんの名をもつて呼ばれているものであります。この地域は猫谷地古墳群の一帯であり、湧き水が豊富などころでした。こここのすずは大木の切株を掘り起こしたら清水が湧き出でたと言われています。 |
| 5 | | 猫谷地とうはちすず 道川 この地域一帯に湧くくなすすこそが、国指定の有名な猫谷地古墳群を作った人々の生活の基盤となっていたでしょう。「とうはち」はこのすずを拓いた人の名に由来すると言われています。近年は高速道路の工事や、圓墳整備に伴う工事の影響などによって、湧き水が出なくなったり、湧水量が少なくなっています。 |
| 6 | | 家農のすず 宿 すずの名は清水の所有者である江釣子家の屋号が家農と呼ばれていることに由来しています。この水で洗うとイボが治るとして子どもたち等がよく訪れていたいわゆる「湯治場」です。水量が多く洗い場も地区の方々により立てに整備され日常生活に利用されています。 |
| 7 | | 江釣子神社のすず 宿 江釣子神社の南斜面の石段を下りたところにあります。百日咳や眼病に薬効ある水として昔から知られたすずで、江釣子神社境内には歎声め祈願の「吹吸権現神社」があり、坂上田村麻呂の建立と伝えられています。 |
| 8 | | 宮社すず 宿 江釣子神社のすぐ西に位置し、大きくえぐれた崖の下から水が湧いており、朝鮮岸(クレソン)が少し生えています。かつては大坊堰の水を分水し、落差を利用して水車を回した所です。製水を試みたコンクリートの枠組みも残っています。 |
| 9 | | 全明寺すず 宿 450年以上前の建立といわれる由緒ある全明寺の西裏境内から湧き出ます。昔は水量多く裏前の供え水として又、生活用水として数多くの人に用いられていました。今は杉の木立もなくなり、周りの環境も変わったが新設された鐘楼や水環境整備事業による桜並木と相俟って、美田を通して眺める光景は素晴らしい鏡面でも一役果たしあげます。 |
| 10 | | 新渡戸すず 妻川 この地域一帯は豊富に湧き出る清水を利用しての芹栽培が有名で県内の主産地となっています。新渡戸の屋号を持つ伊藤家が芹栽培の研究を重ね、この湧き水を芹栽培専用に利用しているところから「新渡戸芹清水」と名付けられています。現在では周辺の芹田を潤しています。 |
| 11 | | 新渡戸すず 妻川 新渡戸3清水平の一つであります。地区民有志が便利に利用しやすいうように整備をした水槽の、奥の杉木立の小さな谷間に湧き出ています。このすすは3段に仕切りられ、上は飲用から浸しもの鍋釜等も洗われています。下のほうは湧き場等にがなりの人に利用されていました。また昔は水車を回して精米や雑穀等の作業に利用されていました。 |
| 12 | | 新渡戸観音すず 妻川 当国33ヶ所の27番札所、新渡戸寺の崖下に湧くすずで、岩手の名水20選にも選ばれています。付近一帯は豊富な清水の湧き出る場所が点在していたことが、この湧き水を利用した芹の栽培で相当の生産量を上げ、「江釣子の芹」として名声を博しています。 |
| 13 | | 鍾水のすず 妻川 鍾水とは屋号(段丘上の家)で、家主が鍾で地面を突き刺したら水が湧き出したとか、別説では阿部貢部が吉川向こうから射った矢がこの地に突き刺さり、そこから水が湧いたともいわれています。清水尻の流れに大きな鰐が数匹飼われています。 |
| 14 | | 妻川羽場のすず 妻川 妻川の羽場と呼ばれる屋号の家、南側段丘下から湧いていることより「羽場の清水」と呼ばれています。戦後は段丘落差を利用して、水車を設置したり、「にじます」を養殖したことがあります。現在は当時に比べるとかなり水量が少くなっています。 |
| 15 | | ふるだすす 妻川 妻川と川内家のちょうど中間に位置し、段丘の部分が大きく隆んでいるところが湧口で、清水の真ん中に大きな岩が一つある、その岩が「ふるだすす」(ガマ鉢)のようであることより愛称されたものです。昔、このすすは大きなガマが積みづき、旅ゆく人を惑わした(妖艶な女性のお話)との言い伝えが残っています。 |
| 16 | | 川内家古すず 川内家 杉木立の斜面に古い石組みの間を静かに流れるすで、かつてはかなりの水量であったといわれ、周辺はウド、フキ、ウルイ、セリ、ミツバなどの山菜が豊富に生えていたところでした。 |
| 17 | | おいの沢すず 川内家 崖の上の「柏山家」の屋号「おいの沢」に由来する名称です。湧き口から流れる狭い川が「おおかみ沢」といわれていた事より、「おおかみ沢」ではないかという説もあります。昔から水量はあまり多くありませんでしたが、冷たいすすとして知られたところです。 |
| 18 | | 川内家古すず 川内家 地権者である千田家の屋号で愛称されています。水量が豊富なすすとして知られた所で、かつては落差を利用して水車を回し、脱穀や精米などに利用していましたといわれています。今でも芋洗いなどに利用されています。すぐ北側の広域農免道の工事の際に、水路が切られるのではとの懸念から湧口を道路の地下に埋設して、現在の池に水を通すことにしたら水量も変わらず、難を逃れた経緯があります。 |

すず

| | | |
|----|--|--|
| 19 | | 桂すuzz (仁平どすす) 川内家 幹回り4mもある桂の根元から湧くすすで、すuzzの名は怪力の持ち主『仁兵殿』にまつわる言い伝えに基づいています。水汲みスポットとして人気のあるところです。旅人がこの泉で喉の渇きをいやし、桂の枝をさし忘れたのが根付いたといわれています。「桂の泉」の名は、水環境事業を実施した際に名称を公算したものです。 |
| 20 | | 川内家すuzz 川内家 「川内家」とはこのあたりの地域名です。このすuzz戻から流れ出る豊富な水は、冬期間の芹の洗い水として利用され、立ち並ぶ芹小屋は冬の風物詩となっています。 |
| 21 | | 境出のすuzz (やすらぎの泉) 川内家 昔は地権者である菅原家の屋号から『境田すuzz』と呼ばれていましたが、水環境整備事業でこの周辺が整備された際に名称を公算し、「やすらぎの泉」としている経緯があります。同事業等によって東屋や木橋なども造られ、子供たちの水遊びの場になっており、また市民の憩いの場となっています。 |
| 22 | | 米造さんのすuzz 川内家 「やすらぎの泉」のすぐ西側に位置し、段丘の中程にある石組みの下から湧き出る水は、せせらぎとなって流れ落ちています。落口付近の水溜りには石造りの五重塔やガマ蛙が置かれています。 |
| 23 | | 御免町すuzz 御免町 市道、妻川・蔵敷線の中間点で、御免坂の東側に位置し杉木立の中、石道の間から静かに湧き水が流れています。『御免町』とはすuzzの上の旧家『佐藤家』の屋号でもあり、このあたりの地名でもあります。昔は水量も多く、快音をたて流れ、すuzz戻は子供たちの川魚や沢ガニ捕りの場所でもありました。 |
| 24 | | 鐵屋すuzz 御免町 御免町十文字坂の西側、杉木立のなかで静かに湧き出ています。昔、国を追われた侍がこの地に住みつき財をなし、銅冶屋を呼んでこの地に住まわせ、野銅冶を営んでおりました。この侍、時は経つても武士の魂は捨てかたく、密かに刀や鎧を作らせ有事に備えていたといい伝えが残されています。 |
| 25 | | くるますuzz (ほんぽこ泉) 佐野 市道佐野線の側面で水環境整備事業で開けられた歩道の出発点となっている場所にあります。市道の元に大きな岩石の間から、こくんと湧き出ている。このすuzzは江釣子村本当に豊富な湧水を利用している、隣ナマズを養殖している跡があなた佐野駅公園となっています。すuzzの名は地権者の屋号から「ほんぽこすuzz」と呼ばれていたので、かつては湧のうらに流れる水を利用して水車を回し、近隣の住民が水抜きなどに利用していました。(ほんぽこ泉)とは、公算によって選定されたものです。 |
| 26 | | 蔵屋敷のすuzz 蔵屋敷 「上の清水」とは、地権者が蔵屋敷の屋号が蔵屋敷の上と呼ばれていたことから来てています。かつては湧水量も多く、すuzz戻は広く大きくてブルー代わりの遊び場でした。野中方面も含めた地域の野菜洗いなどで賑わい、日常生活に欠くことの出来ないすであります。今はすくつかり変わって昔の面影が消え、狭く小さくなつた湧口となっています。 |
| 27 | | 藏屋敷すuzz 蔵屋敷 ここは江釣子の西南端で和賀町長沼との境に位置するところであります。「蔵屋敷」とは、むかしかねる程いで辛抱し、米穀や金糞等を備えてかまぼこが作られたことから地名になっています。湧口は道路の横斜面下で、長沼湧水群からの豊富な水が流れ、洗い場に降りる急な階段となっています。周囲の環境もすぐ前に老人福祉施設等も建設されるなど、すっかり姿を変えてしまっています。 |
| 28 | | 館のすuzz 案 体育館裏手にある公園で囲まれた池のような大きな泉。この泉は館の水と水共で、昔は水共で、昔、江釣子の館庭といわれています。水量は相当なもので、昔は沼のようになっていましたが、今では魚の宝庫で、子供、大人達に親しまれた場所でした。この泉の底には壳が沈んでおり、夕闇が泡る頃にかすかに鐘の音が響いてくるところ、石を投げれば鐘の音となって返ってくるという伝説があります。 |
| 29 | | 和野のすuzz 和野 和野とは地区的地名であり、住宅地より少し下がったところから湧き出している。湧き口には石祠があつて水神様が祀られています。種付けの時期には種もみをこの泉に浸し、今年の豊作を祈願しました。以前は地区的自治公館がすゞにあつたが、老朽化により移転してからはこの清水の利用も少くなりました。 |
| 30 | | 地蔵流れすuzz 中通 滑田の梅ノ木地区にあり、以前は水量も多く村一番の清水と言われたが最近は湧水量が少なくなっています。昔、前を流れる薬師川に流れきておりお地蔵様を拾い上げ、水神様としてこの地に奉り、お堂を建てたたのがこの清水の由来となっています。 |
| 31 | | 滑田すuzz 中通 滑田清水といつも、ここは和野地区のすぐ西に位置しております。老杉の根元近くに湧き口があり、最近は昔に比べて水量は少なくなっているが水田に水が入つから水量が増すとのことです。地区の方々には、夏は冷蔵庫代わりに、冬はボヤボヤと湯気を出し、生活用水に重宝がられております。 |
| 32 | | 道の上つみがしらのすuzz 道の上 現在はすuzzといつも沿いの状況となっており、防護柵としてフェンスが施されています。西隣に堤防をまつて、田の仲とし疊作を祈願しています。昔は、周辺に数か所の泉がある、その水を集めて堤を築き、この地区的水田を潤していく重要な堤でした。この清水は横川目の御前瀬とつながっているといわれ、御前瀬に橋をまづつみがしらに浮かび上るとの言い伝えがあります。 |
| 33 | | 鳩岡崎すuzz (吉兵衛さんのすuzz) 鳩岡崎 鳩岡崎遺跡の南西100m余りの、後藤家の屋敷のはず杉木立の中から清らかな泉が音もなく湧き出ています。昔、この丘は眺望絶佳、洪水や災害を防ぐために格好の場所であります。古来よりこの泉を生活用水としていたことがわざとばれます。この泉の周辺は今でも、季節の山菜が豊富です。 |
| 34 | | 小刀すuzz 道の上 江釣子の西北端で和賀町と境を接するあたり、部落も尽くると思われる田んぼの中に一ヵ所立が残されている所にあります。昔、旅の僧がこの地にさしかかり、どの湧きを見え、水を探しましたが見つからず倒れ伏し、懐の小刀で地面を掘つたところ水が湧いたという伝説が伝えられています。 |
| 35 | | 佐野親水公園 佐野 江釣子湧水群の西端で、市道佐野線の西側(ほんぽこ泉の西側)に位置している。かつては(江釣子村当時)近くからの湧水を利用して、鯉とアメリカ鯉の養殖場としていたところですが、水環境整備事業によって、現在は親水公園に生まれ変わっているものであります。市民の憩いの場、及びウォーキング仲間の出発・終着点として親しまれています。 |

神社

| | | |
|----|--|---|
| 1 | | 白山神社 北鬼樋 祭神年代等不明で、元觀音堂であるといわれ相当古からあったお堂ですが詳細は不明です。 |
| 2 | | 八坂神社 北鬼樋 明治39年の火事により堂社、その他文献なども焼失し建立年代等詳しくは不明です。 |
| 3 | | 八幡神社 北鬼樋 建立年代等不明ですが、明治維新までは阿弥陀尊を本尊として善田別命を合祀して元岡田村の鎮守としていたと思われます。明治維新となり神仏混淆を禁じる上抵官通達により仏像は別當家に蔵され、県より御種代品邸と氣味が下附され今日に至ったものと思われます。 |
| 4 | | 江釣子神社 下江釣子 建立年代は不明ですが、伝説によると、嘉禄元年(1225年)9月19日、下江釣子に禪室の五郎という、嘉禄元年(1225年)9月19日、下江釣子に禪室の五郎という、その子、六郎が長い間病氣で回復の兆しが見えなかった。ある日、神の夢があり和賀川の鐘水で釣りをしたところ、般若像がかかりこれを祀ったのが始まりといわれています。まもなく六郎の病も全快したと伝えられています。宝曆2年(1752年)社殿を再興し江釣子大神明として祀られ現在に至っています。 |
| 5 | | 妻川神社 妻川 お堂のほかに、小石を積み上げた塚があり、その頂点に道祖神、山神と刻した石碑がたてられており、小さい石の祠もあります。寛仁元年(1017年)に安倍信が雲井御前を伴って領内めぐりの途中この村に泊りましたとき、般若像が見えなかった。ある日、般若像があり和賀川の鐘水で釣りをしたところ、般若像がかかりこれを祀ったのが始まりといわれています。まもなく六郎の病も全快したと伝えられています。また、元は寺門がございましたが、般若像が大きくて寺門が狭いので「茂子安之妻之神」と名づけられ、村の名も妻川といいます。 |
| 6 | | 荒屋観音堂 (妻屋神社) 荒屋 本尊は薬師如来坐像。ほかに5体の仏像があるが、元は8体あったといわれています。詳しくは不明ですが、昔、藤田小坊というお坊さんが戦火を逃れてこの地にたどりつき聞いた薬師堂であったと伝えられています。荒屋薬師堂ともいわれています。 |
| 7 | | 青面大金剛尊 青面 昭和12年に火事で文書等が焼失し詳しいことはわかりません。田の神(農耕の神)が祀られているそうです。 |
| 8 | | 新渡戸観音堂 妻川 人当山 新渡戸寺。本尊は十一面觀音。天正4年(1576年)、和賀氏の家臣新渡戸対馬守黒重が江釣子七子刈で領した際、この地に新渡戸家代の守本尊を安置する一堂を建立したのが始まりといわれています。また、当国三十三ヶ所の廿七札所。以前は近郷では同行者を募り紫波、旧神貴、和賀の三郡に及ぶ三十三ヶ所の札所を巡る観音講の行事が盛んでいました。 |
| 9 | | 貴徳院 省 本山修業院 貴徳院。本尊は不動明王。永正の頃慈正僧都の開基と伝えられています。現在までに義徳院、行徳院と寺号が変わり天保の頃より長く自家院と称していましたが15代秀仙の頃より貴徳院となり現在に至っています。寺としては800年ほどの歴史と伝えられており、和賀氏の祈禱所であったともいわれています。 |
| 10 | | 三日月不動尊 三日月 本尊は座薬不動尊。別当高橋家の祖先高橋宗助が明治初年頃自作院と改めています。参道入口鳥居には三日月不動尊の額がありまた境内には牛頭天皇碑があり、牛頭天皇の境内に不動堂が建立されたものと推測されます。 |

寺

| | | |
| --- | --- | --- |
| 1 | | 全明寺 宿 寶洞宗 白月山 全明寺。本尊は釈迦如来。天文21年(1552年)金ヶ崎永承寺の末寺として創建されました。当世住職18歳で460年の歴史を刻んでいますが、2回か3回の火災により文書等が焼失し詳しいことはわかりません。和賀原野を水田に開拓した奥寺境拓事業に協力した4代大通和尚の功 |